

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に則して、個人の尊厳を守りその人らしい生活を目指している。	○	地域の中で、自分らしい生活を築いてく様、努めている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアプラン会議で利用者の意向・希望などを実践できる様支援している。	○	個人の意見・希望を重視し、支援していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の人々との交流を通して、社会と風通し良くする為に取り組んでいる。	○	地域の人々が気軽に遊びに来られる環境作りをしていく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設の周りを散歩したり、清掃を一緒にしている。又、前を通過時に挨拶する習慣をつける。	○	自治会、老人会等の行事への参加を今後積極的に計画していく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事の情報収集や広報、ボランティア情報などを活用している。	○	地区福祉委員、役所の広報等を通して、地域交流をしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	独居老人の会、老人会を通して地域の高齢者との交流をしていく。	○	地区福祉委員さんからの情報を得ていく様にする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	役所からの指導・自己評価及び外部評価を活かして、ケアの改善に取り組んでいる。	○	評価内容を参考にして出来ることから改善していく。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回目の運営推進会議(20082/8)を実施。ご家族・行政・地域とともに歩いていくグループホーム作りをしていく。	○	今後定期的に運営推進委員会を開催して行く予定。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する会議に参加、サービスの質の向上に向けて共同して取り組んでいる。	○	報告・相談を密にしていく。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護・後見人制度の研修会に参加し必要時には説明を行っている。	○	相談時にはその都度説明していく。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を毎月開催・参加し、学習した事項は共有している。	○	外部・内部研修に参加を促す。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時、家族が納得されるまで、丁寧な説明を心がけている。</p>	○	<p>家族からの不安、疑問点に関して迅速な対応をし、信頼を得れるよう努力している。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>受付に意見箱を設置している。家族・交流会を通じて、気軽に意見を交換できる場を提供している。</p>	○	<p>不満や意見をケアの向上の為に良い効果と考え、真摯に取り組んでいる。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>月1回、定期的に、茶話会を開催している。三ヶ月一回の新聞や、行事予定表を送付してコミュニケーションをとっている。</p>	○	<p>訪問された折に、業務を優先せず、家族との交流を大切にしている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入所契約時に、苦情受付の説明をしている。</p>	○	<p>苦情があった場合は、担当者が迅速に対応し信頼を得ていく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>リーダー会議、ユニット会議委員会を通じて、職員間の意見を聞いている。</p>	○	<p>会議以外に、親睦会を随時開催して行く。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>外出行事や、イベントには、職員の人数を確認する様努めている。</p>	○	<p>個別対応時は職員の人数を検討している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動時には、利用者に不安を与えないように、配慮し、不安感を排除する支援を継続している。	○	移動が決まった時は、現状を把握し、出来るだけ利用者に迷惑や不安感を持たない様に支援している。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー研修・新人研修・現在研修等内部研修の参加。外部研修を受けるチャンスを増やしていく。	○	外部研修・専門誌の購読を進めていく。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワーク作りを、昨年12月からスタート意見や情報を共有している。	○	同業者や併設の居宅介護事業所等を通じて、活動の範囲を広げている。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	委員会活動、1回/月ユニット会議等でストレスを感じている職員を発見しコミュニケーションをとり、解決方法を一緒に見つけている。	○	現場での人間関係の悩みは早めに相談していく様管理者として努めていく。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ユニット会議や委員会活動を通してより良いケア方法を皆で共有できる環境作りをしていく。	○	楽しい行事企画やケアが上手く出来たときは、その都度、成果を誉める様にしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常に本人の訴えに耳を傾け、表情や行動に注意しながら、支援の方法を全職員の統一したケアをしていく様になっている。	○	本人の訴えに、耳を傾け、不安が軽減できるように常に努めていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族訪問時には、家族との話し合いから、良い方法をアドバイスいただくと、常に感謝して信頼を得ている。	○	家族の不安や悩みも共有できる様にしていく様努めていく。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成時、利用者・家族のニーズに則したサービスをしている。	○	アセスメントの充実、ケアプラン・モニタリングと利用者や家族の意向を尊重していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人らしい、安定した楽しい生活を送れるように、常に場の雰囲気を見ながら馴染みの関係作りをしている。	○	安心・安楽・共同と馴染みの関係作りをする様に努めていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が生きがい・目標・楽しみを感じていただける様に、又仲間意識を持っていただける様になっている。	○	ユニット内での同じ行事・日常生活を通じて、仲間意識・馴染みの関係を作っていく様に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会・誕生日会を通じて家族と本人との支えあう関係作りをしている。	○	訪問時にその都度、利用者の嬉しい・楽しい情報を伝えている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と共に利用者の安心できる環境を共同で築く認識を持っていただける様に伝えている。	○	学習会・交流会を通じて「認知症」の理解をしていただく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、訪問して頂ける様努力している。	○	訪問が楽しみになる人間関係を構築する様努めている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	同じ趣味を持つ方同士で交流を図っていただいている。	○	レクリエーション・クラブの参加により共に助け合って力を出すことの楽しみ喜びを体感している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設の新聞や、時々お便りをお渡ししている。退所後も気軽に来て頂ける環境作り。	○	終了後も、相談や訪問していただける様に話している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、一人ひとりとのコミュニケーションを取る様心がけている。	○ 本人や家族の意向を尊重した対応をしている
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問時に家族から、又本人の言葉から生活歴や趣味・希望を聞いて、サービスにつながる様、情報の把握に努めている。	○ 今までやられていた、生活習慣や趣味を継続できる様にしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の意思確認、心身状態を把握しながら、個々の生活を構築できるよう努めている。	○ 意思確認を行い、日常生活を楽しめる様にしていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議や家族・本人の意向を参考にしながら、支援の方向性を決め介護計画を製作している。	○ ケアプラン製作は定期的に行っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	同上	○ スタッフ間で介護計画の共有を図っていく様に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を細かく記入、全職員が情報を共有し、月1回カンファレンスを行っている。	○	スタッフ間の介護計画の共有を図っていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設した特別養護老人ホームやデイサービス等の資源を利用して、活動の範囲を広げている。	○	デイサービス・特養のイベント、喫茶コーナー・リハビリコーナー等、積極的に利用していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域福祉部と共働して、地域の中で活動している機関との交流を図っている。	○	地域の方々の理解を得ながら、支援を徐々にお願 いしていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーやその他のサービス事業者との交流を今年から少しずつスタートしている。	○	協働する場を今後は少しずつ増やしていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会開催の協力を通じて地域包括とのパイプが出来、今後とも協働していく。	○	会議や研修会を通じて、協働する機会をふやして いく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一回、往診診療	○	併設施設の精神科医とかかりつけ医との連携を図っていく。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医の紹介と往診医(内科)との連携の必要性を家族に話していく。	○	本人の状態を家族に話し理解した上(認知度の進行)で適正な精神科医の受診をお願いしていく。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の特養部・看護師との連携を図っている。	○	併設の特養の看護師・往診医・看護師など相談・連携を密にしていく様努める。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関に入院時は、家族と連携を取りながら、情報交換を密にしている。	○	入院時、退院時家族との連携を取り、状態の把握に努めるとともに退院後のケア方法も相談している。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は併設の特養に入所を促し、安定したケアを継続している。	○	併設の特別養護老人ホームへの利用も検討して、重度化、終末期に向けて、家族の思いを受け止めていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームで「可能なこと、不可能なこと」を見極め、併設の特養へ入所していただいて、安心したと喜ばれている。	○	グループホームのチーム内で、出来る事、出来ない事を明確にし、家族とのカンファレンスを充実させ、安心出来る終末期の対応を検討していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>転移先で不安にならない様に丁寧に報告・情報は伝えている、又、相談にも応じている。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>スタッフ間で統一事項として認識していく。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	<p>出来るだけ、コミュニケーションの中で自己決定できるような言葉掛けを心がけている。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	<p>散歩タイム・クラブ活動の参加は利用者のペースに合わせている。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	<p>購入希望時は本人の意向を尊重していく様努めている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>昼食の味噌汁作りや、配膳等、1人ひとりの出来るものを手伝って頂いている。</p>	○	本人の意向や気分を確認しながら家事手伝いをお願いしている。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>本人の希望を聞き取り、スタッフとともに外出でき、好みのものを購入できる機会を作っている。</p>	○	家族の了承を得て支援している。
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p> <p>排泄チェック表を活用したり、失禁を減らす為のパットの工夫・トイレの声掛けを行っている。</p>	○	トイレの表示などスムーズにトイレに行ける様に支援している。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p> <p>1人ひとりの一日の生活ペースに合わせてながら希望入浴時間をお聞きしている。</p>	○	拒否のある方にスムーズに入浴を楽しんでいただける方法を検討中。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p> <p>1人ひとりの就寝時間に合わせている。個室であり、自由に休息をとる様にしている。</p>	○	本人の希望を重視している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p> <p>利用者の希望・願いを優先して外出や行事を決めている。</p>	○	ゴルフ・麻雀・書道・音楽と自分に合わせた楽しみに参加していただいている。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルが起き易い為、お金は施設管理させていただいている。	○	利用者個人のお金・貴重品管理はトラブルも起き易く中止している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	時間を固定せず、訴え時にはその都度対応している。	○	朝・昼・夕の散歩、買い物等比較的自由に外出されている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常の会話等から、本人の意向を汲み取り、月一度程度の個別外出の機会を作っている。	○	家族とも同行していただく様に今後は計画していく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの訴えがあった場合その都度対応している。	○	今後は、家族を交えてカンファレンスをして、電話可能な時間帯・回数も検討していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室でもゆっくり過ごして頂ける様な部屋作りを心がけている。	○	入所時、自分の部屋作りを、家族と一緒にしていただき、居心地の良い時間作りをしていただく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会(1回/月)を通じてスタッフ間で認識を統一している。	○	全スタッフが、周知出来る様に取り組んでいる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p> <p>1F玄関の入り口は鍵をかけている。</p>	○	安全確認が徹底出来ない為。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p> <p>所在確認は常時している。 夜間は適宜巡視している。</p>	○	電気や、エアコンの操作でトラブルある為、室温や、テレビのボリュームに注意して、巡視の必要がある。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p> <p>カミソリ、爪切り、針使用時等、スタッフの見守りで利用者にしていただいている。</p>	○	使用時はスタッフが付き添って使っていただく様注意している。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p> <p>事故防止委員会を通じて、防止に取り組んでいる。事故後の対応としてカンファレンスをして、周知していく。</p>	○	事故防止委員会参加で知識を共有し事故防止に取り組んでいる。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p> <p>急変時は、緊急連絡網で連携を図っている。</p>	○	応急手当や初期対応の訓練は今後・必要。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p> <p>非難訓練を今後定期的に行っていく。 (2回/年)</p>	○	昨年、初回の訓練をした。 スタッフ間で身に付く様に、実践訓練の機会を作っていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p> <p>日常生活の中で、期せずして起こる事故等・家族・スタッフ間で認識し、対応策を話し合っている。</p>	○	家族への迅速な報告・連絡・相談がリスクマネジメントにつながると認識している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>毎日のバイタルチェックで体調の変化に注意し、異変時は、統一したケア対応をしている。</p>	○	家族・連絡・医師の指示に従って、対応している。
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>個人のケースに分包し、服薬情報は個人のスタッフが確認し、共有を図っている。</p>	○	完全に服薬されているか確認せずに服薬ミスがある為、常時確認・介助をしている。
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>朝食時牛乳の提供。 テレビ体操や散歩。</p>	○	排便状況をチェック表で確認して、水分補給、服薬管理をしている。
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>毎食後の口腔ケアに声掛けをしている。 自力で出来ない場合は介助している。</p>	○	一人一人の状態に応じて、専門家とも相談しながら、口腔ケアの援助をしている。
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>日々の目安量、水分量の把握を行っている。</p>	○	水分摂取を積極的にされない方には、声掛けや好みの飲料を提供している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修を通じて、全スタッフが周知している。	○	研修やマニュアルの整理をしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理後、1時間以内に召し上がって頂ける様配慮している。	○	利用者・スタッフ共に、手洗いの施行をしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	美しい外観と、花・木々に囲まれて、親しみのある、安心できる、出入り口になっている。	○	気持ちの良い快適な場所作りを意識している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・玄関等には、その季節ごとの生花を飾っている。	○	くつろげるリビング、認知しやすい安全なトイレ、風呂場、自分の居室作りをしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや共有スペースに椅子を設置して、どこでもくつろげる雰囲気がある。	○	自由に、安全に過ごしていただける様にしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	利用者の意向通りの生活スタイルを継続している。
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	○	利用者の個々の状況に合わせて、温度調整・換気をしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	安全に、安心して移動できる様にゆったりとした環境になっている。
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	○	生活を通して、認知症の方々が混乱しない様、スタッフは対応に十分に注意を払っている。
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	○	庭の花々を楽しんだり、家庭菜園の収穫を楽しみにされ、定期的な水やり等も仕事として頂く。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域交流を通して、様々な社会との交流をしていきたい。多種のクラブ活動を提案することで、生きがい・目標・楽しみを引き出す。又、家族との交流の中で、自分の存在意義を改めて感じていただきたい。